

海外留学から帰国した日本人学生を対象とした留学後教育

—ケアとキャリア形成のための自助グループの試み—

○高濱 愛 (一橋大学)・田中 共子 (岡山大学)

I. はじめに

日本人留学経験者を対象として筆者らが行った調査によれば、帰国した彼らは「共感と情報収集のニーズ」を持ち、サポートを必要としている存在である(高濱・田中、印刷中)。留学経験者同士で集える自助グループ的な活動の場を提供することは、帰国後の支援として効果的と考えられる。先に筆者らは、留学から帰国した日本人学生を対象として、自助グループ活動の実験的セッションを試行した(高濱・田中、2010)。続いて今回は、その結果を基に内容を一部改良し、異なる帰国生を対象にして実施した、第二期セッションの概要を報告する。

II. 方法

調査対象者 Z大学の学部生5名(男性1名、女性4名)(表1)。年齢は21歳から24歳。Z大学の交換留学生として4カ国に9か月から12ヶ月間派遣され、帰国後2か月から9か月が経過していた。調査に先だってZ大学の派遣留学経験者に活動参加の意志を尋ね、参加の申し出のあった学生に対し、活動の主旨を説明するとともに調査協力の承諾を得た。

表1 セッション参加者の属性

ID	性別	年齢	留学先地域名	留学期間	帰国後経過期間
A	女	22	北米	10か月	3か月
B	女	21	オセアニア	12か月	2か月
C	女	22	欧州	9か月	7か月
D	女	24	欧州	11か月	9か月
E	男	22	アジア	9か月	9か月

手続き 20XX年某月に、Z大学において約4時間にわたって「留学経験者のつどい」と題した自助グループ活動のセッションを実施した。事前に、参加者の帰国後の状況に関する質問紙に記入してもらい、回収した。セッション当日の講師は本稿第一筆者と第二筆者の2名で、ともに留学経験がある。セッションのアシスタントとして、北米留学経験を持つ日本人学生1名を雇用した。セッションの様子は教室の前後から2台のビデオカメラで撮影し、終了後に逐語録を作成した。

使用教材 当日のテキストの概要を、表2に示した。セッションの運営方法と教材は先のセッション(高濱ら、2010)にならひ、書き込み式のワークシートと資料、質問紙をバインダーに綴じて参加者に配布したが、表2に示した中盤のⅢ(留学体験)とⅣ(リエントリー体験)の部分、参加者同士の語り合いのセッションとして再構成した点異なる。

III. 結果と考察

テキストの構成(表2)に沿って、語り合いを進めていった。まず「Ⅲ.留学を語ろう!」では留学前・中・後の「大変だったりつらかったりした経験」を付箋に書き出してから語り合い、参加者らが自らKJ法を用いて時期別分類を試みた。留学前にはビザ申請など計23項目が挙げられ、「手続き」「現地の知識不足」など5カテゴリに集約された。留学中は相談相手の欠如や議論など計32項目が、「人間関係」「語学」「健康」「自己管理」「環境の

違い」「物理面」などの8カテゴリに集約された。帰国後はキャリアプラン、現地の友人との連絡、退屈さ、物価の高さやライフスタイルの違いへの戸惑いなど計49項目が挙がり、「就活」「留学先での人間関係」「生活の中でのつまらない感じ」「物理的違い」「自分と日本」「日本での人間関係」「自分と所属コミュニティ」の7カテゴリに集約された。「IV.リエントリー・ステージへの対応」で帰国後の体験を語ってもらうと、「疎外感や、母国に対する批判的な視点」(3名)、「退屈」・「人間関係が以前と変化する」・「留学先に帰りたい」(各2名)等、が挙げられた。これらの対処法として用いられていたのは、留学中の友達と連絡をとる(5名)、就職活動で忙しくする(4名)が挙げられた。「V.留学経験を生かした将来プラン」で将来設計を尋ねると、「翻訳事業に従事(A)」、「国際機関勤務(B)」、「留学仲間との交流継続や日本文化の発信(A・B・C)」、「国際的感覚の活用(D)」、「人のネットワークの拡大(E)」などが語られ、職業・私生活・趣味に関連づけられていた。最後にセッション全体を振り返った自由記述をみると、「他国に留学した人の話を聞いて面白い(A・B)」、「国は違っても同じ問題だと分かった(B)」、「就活時の参考になる(E)」、「モチベーションが上がった(D)」、「だいたいみんなが同じような感想を留学に対して抱いていることが分かって、安心した。今日のつどいをきっかけに、また語学の勉強やあちらの情報に触れようと思った(D)」という回答が得られた。

表2 テキストの目次

I. はじめに	1. 「留学経験者のつどい」の主旨	2. 「留学経験者のつどい」のルール	3. 研究協力承諾書	4. チェックリスト
II. 自己紹介				
III. 留学を語ろう！(語り合いセッション)	1. 語り合いと整理のエクササイズ	2. ワンポイント解説：留学の前・中・後*	(1) 適応・再適応について	(2) 自分のリエントリー体験
			(3) リエントリー・ショックとは何か	
IV. リエントリー・ステージへの対応				
V. 留学経験をいかした将来プラン	1. 進路選び	2. 進路選びのヒント①～経験の「たなおろし」～	3. 進路選びのヒント②～〇年後のキャリアプラン～	4. 学びの発展法
	5. 留学後*に役立つ情報源	6. 自分の将来設計	7. まとめ	

※「留学後」とは、帰国後を指す。

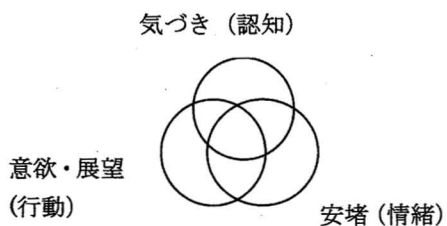


図1 セッション効果の「三要素」モデル

セッション中の語りから、留学経験者たちが、リエントリーに伴って困難を経験し、それらに解決を試みていることが示された。困難体験の語り合いからは、留学前・中よりも帰国後に挙げられた項目のほうが数が多く、認識された種類もより広いことが分かった。セッション中の語りと自由記述からは、認知的(気づき)・感情的(安堵)・行動的(意欲・展望)な効果が得られたことが示唆された(図1)。先のセッションの結論と基本的に同じであり、比較的安定した効果を示すセッションと考えられる。

引用文献

高濱愛・田中共子「短期交換留学生のリエントリー・ステージにおける課題の分析—逆カルチャーショックと留学活用を中心に—」『人文・自然研究』5号(印刷中)

高濱愛・田中共子(2010)「帰国後日本人留学生のケアを目的とした自助グループ活動」『多文化関係学会2010年度第9回年次大会抄録集』, pp. 66-69.

謝辞 本研究は、平成21年～22年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究21653090 代表高濱愛)の助成を受けた。